

研究推進委員会通信

平成30年9月26日

9月20日(木曜日)に奥西先生の授業研究会が実施されました。2年1組は1年生のときから授業研究会を実施しており、私もこれまでに何回か授業参観をさせていただいていますが、以前より生徒が主体的に学ぶ姿が見られ、学びに向かう姿勢が身に付いていると思いました。本校の生徒を対象にした外部アンケートでも、学習面に関する項目の肯定的な意見が一昨年・昨年と比較して大きく上昇しており、学校全体の「生徒の学びやすい環境づくり」がすすんでいることが伺えます。今後は、生徒の学力向上へつながる手立てを考えていきたいです。そのためにも、「P(計画)」「D(実行)」だけでなく「C(評価)」ができる仕組みづくりが必要です。奥西先生の授業では、最後にプリントを配布し、生徒の学習の定着の度合いをはかる工夫がされていました。単元ごと、定期考査ごとではなく、授業ごとに生徒の理解度を確認してみることが、スモールステップの指導につながると思います。後期に向けて、ぜひ1つ新しい取組を導入してください。



相談しながら問題を解く生徒



空間ベクトルを箸で表す



異校種の先生との授業研究会

「読解力育成」のために、普段の授業で心がけていることはありますか

- ・生徒の考える時間、話し合う時間を十分に確保したい。
- ・問題文から何を求めたいのかをしっかりと把握する。
- ・語彙を増やすために、ささいな言葉も意味を確認する。
- ・比喩表現や慣用句の意味を明らかにする。
- ・指示語の内容を明らかにする。
- ・例題と自己解決の繰り返し。
- ・歴史的事実から、その背景となる隠れた事実を読み取らせる。
- ・質問に答える際には、単語ではなく文章で話をさせる。
- ・書かせる場面をつくる。
- ・質問しやすい雰囲気づくりや、生徒の反応を大切にしている。
- ・生徒が理解しやすい言葉で言い直すなどの配慮をする。



この項目のみ空欄という先生が多数いらっしゃいました。「読解力の育成」を難しくとらえず、生徒が理解しやすいような支援(専門用語をかみ砕いて説明する・既習事項を振り返りながら問題を解く)をすることも有効だと思います。また、指示を「いつ・どこで・なにを・どうしてするのか」まで丁寧にすることも有効だと思います。教員は教育のプロでなくてはなりません。そのためにも「学び続ける教員」である必要があります。授業研究会などの機会に日々の実践の省察に役立ててください。